

ながいも栽培における岩手町大規模養豚団地産発酵豚ふんの利用法

ながいも栽培において、50~100gの子いも利用を前提とすると、発酵豚ふんを10a当たり600~700kg施用することにより基肥化成肥料の代替ができ、収量・品質の高位安定が可能である。

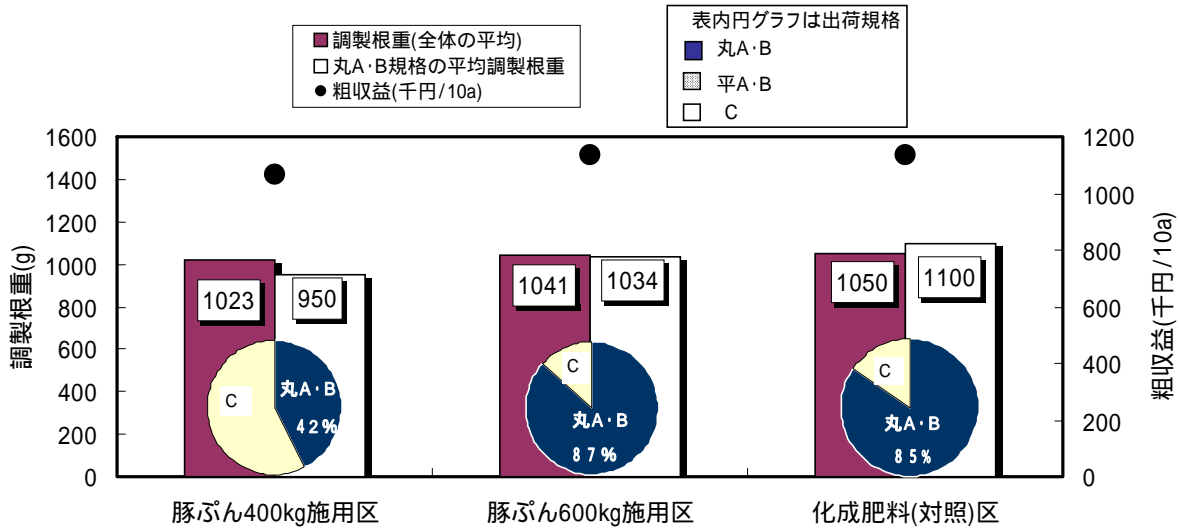


図1 豚ふん施用量別の形質 (2003年)

400kg 施用より 600kg 施用で、化成肥料区並みの収量・品質

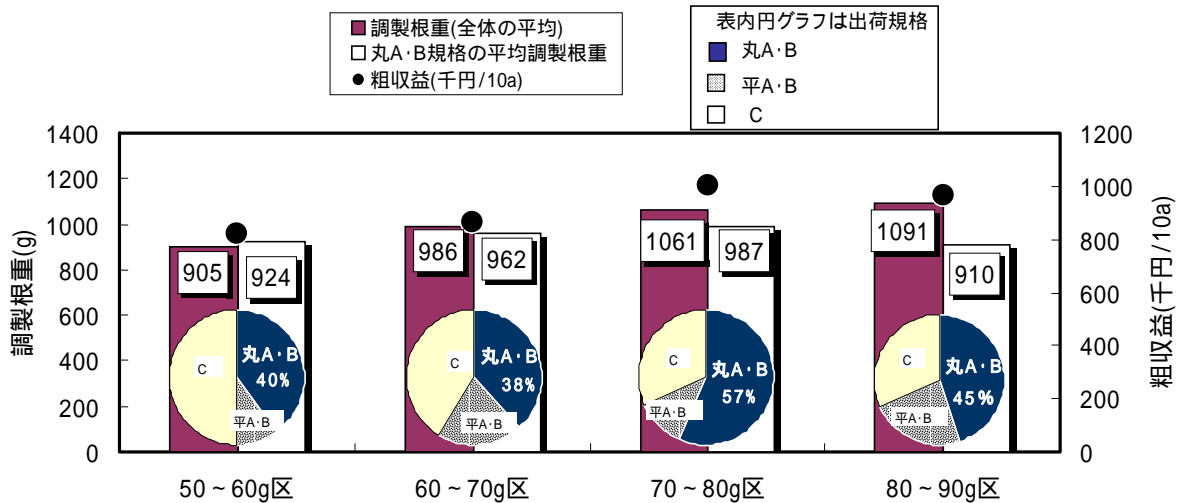


図2 供試子いも重別の形質 (2002年)

使用する子いもは 50g ~ 100g のもので同様に実用的